

調査研究彙報

建物研究室

滋賀県下庭園の実測調査 栗東町の安養寺庭園(570m²)と浅井町の孤篷庵庭園(1590m²)について、それぞれ縮尺50分の1と40分の1で実測した。1989年11月。(田中・高瀬・本中・小野)

長崎県福江市石田城の庭園調査 安政5年(1858)、城内二の丸に造られた藩主隠居宅の庭園(約6,000m²)について縮尺40分の1で実測した。1989年12月 (高瀬・安田・本中・小野)

京都武者小路千家の庭園調査 茶道三千家の一つである武者小路千家、官休庵露地の実測調査を京都市の依頼により行った。実測にはトータルステーションTC1600を用い、縮尺1/40の平面図を作成した。一部建物を含む実測面積約480m²。1989年12月。 (高瀬・本中・小野)

歴史研究室

葉師寺調査 東大史料編纂所との共同調査(10回目)。20・23・25・26函の整理分類・調書作成と14・16函の写真撮影を行った。各函には多量な近世文書が収められており、各函継続調査となった。1989年7月。(綾村・森)

その他の調査 法隆寺版板木の調査(1989年8月、綾村・寺崎・森)。西大寺清淨院聖教の調査(1990年3月、文献全員)。石山寺深密蔵の調査(1989年8・12月、綾村・橋本)。

平城宮跡発掘調査部

平城宮朱雀門の復原に関する研究 今年度から「特別研究第一次大極殿地区復原整備のための基礎調査」の一環として組込まれることになり、1989年6月と1990年3月に研究会を開催した。今年度から3ヶ年計画で朱雀門基壇の建設が認められたこともあって、朱雀門の復原案の再検討を行い、基壇建設のための年度計画およびその実施案を示し討議を加えた。(細見・内田)

特別研究第一次大極殿地区復原整備のための基礎調査 第一次大極殿地区の復原整備に必要な基礎資料収集の手始めとして、宮殿の航空写真の撮影を行い、解析図化機 WILD AC-1を用いて縮尺1/200の現況地形図を作成した。また、地形造成計画をコンピュータを用いて立案するための支援システム(LAPLAS)も購入した。(伊東・高瀬・本中・小野)

特別研究発掘庭園の資料収集 発掘庭園はある時点での庭園の骨格をそのまま残しているところから庭園史研究上貴重な資料を提供することが多い。本特別研究は、全国の発掘庭園に関する資料を収集・整理してその成果を刊行することを目的とする。初年度はリスト作成後、各都道府県に照会して基礎資料の収集を行った。(牛川・田中哲・高瀬・本中・小野)

史跡春日大社境内地実態調査および修景整備基本構想の立案 1986年度から春日大社境内実態調査委員会が実施してきた自然科学、人文科学の各分野にわたる調査結果をふまえ、1989年度には境内地の修景整備基本構想策定にかかわる指導助言を行った。また、本研究所が分担した既往の調査成果(建築、歴史)を取りまとめるとともに、修景整備基本構想策定報告書を作成した。(細見・綾村・本中)

ラオス・ワットプー遺跡の発掘調査 ワットプー遺跡の発掘調査に指導者が欲しいという、ユネスコの要請に日本が応えて、ラオス南部のチャンパサック市に1989年12月上旬から七週間滞在し、発掘調査を指導した。

ワットプーはヒンドゥー教の寺院遺跡で、ラオスでは第一級の文化遺産である。ワットプーの現存する建物は一連の造営で、造営の時期は十世紀、遅くとも十一世紀である。カンボジアのアンコールワットに先行するクメール文化の所産であることは間違いない。創建当時はヒンズー教の寺院であったが十四世紀頃に仏像を安置し仏教寺院となった。現在は山裾に二つの宮殿と聖牛殿、途中のテラスに六つのストゥパ、山の中腹にある最上のテラスに主堂、図書館がのこっている他、中央参道に沿って、門の基壇が四・五棟分のこる。

今回の発掘調査が小規模で予備的調査であったにもかかわらず成果は多い。現存する建物は浅いところで0.8m、深いところは1.5mほど基壇が埋まっていることがわかった。宮殿の周囲には石敷舗装面があり、ストゥパーの周辺にも石・レンガの舗装面があるのがみつかった。主堂は石造と煉瓦造の素材の違う二つの構造体から成り、二つの構造体が時期が異なる造営とする見方があったが同時期であることが確定的になった。主堂が現存の建物の裾に基壇を広げていることが明らかにあった成果も大きい。乏しい機器で測量基準点のネットワークをつくった。この測量の成果は建物相互の位置や検出した遺構の相対的位置を知るのに有効なはずである。

ワットプー遺跡の保存に関して日本にも援助がもとめられている。資金の援助や、人の交流を積み重ねる必要があるし、調査に要する機器・道具の提供が考えられる。(上野)

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

結城廃寺の発掘調査 茨城県結城市の結城廃寺第2次調査の指導。今年度は伽藍配置を明らかにするためにⅠ区、寺域南限を確認するためにⅡ区を設けた。その結果、Ⅰ区で中門と南面回廊の一部、中門の東北で塔跡、塔の西北で基壇建物の一部を検出した。塔跡には心礎が遺存し、舍利孔の石蓋も残されていたが、残念ながら舍利容器はなかった。石蓋にはベンガラ、緑青等を使って5弁の蓮華文が描かれていた。Ⅱ区では西限の南北溝を検出した。溝はなお南にのび、南限は確認できなかった。1989年8月～10月。(山本・大脇・立木・深澤・岩永・井上)

埋蔵文化財センター

滝峯才四郎谷遺跡の調査 銅鐸が埋納されている地点が、偶然明らかとなった遺跡において、これに関連する遺構の存在を探查すること、調査の方法を検討すること、出土状態の写真撮影の方法についての指導。静岡県細江町所在。1990年2月(佐原・西村・牛嶋)

盛岡城石垣修理に伴う調査 5ヶ年計画の石垣移動量計測の最終年にあたり、これまでの計測値の検討、報告書編集、今後の計画について、現地で研究会をおこなった。(伊東・内田)

長登製銅所の発掘調査 山口県美祢郡美東町大切。東大寺大仏鑄造の銅を供給したと伝えられる長登銅山を町教育委員会が3年計画で発掘調査を行うことになった。本年度は遺跡の範囲確認調査。奈良時代～平安時代の大量の土器類、羽口用の粘土採掘坑などを検出。(巽)